

フィットレル・アーロン

Fittler Áron

准教授
博士(日本語・日本文化)

✉ fittler.aron@komatsu-u.ac.jp

研究
Keyword

日本古典文学、和歌文学、文学の翻訳、比較文学、仏教文学

プロフィール

2016年 大阪大学大学院 言語文化研究科 日本語日本文化専攻 博士(博士後期)課程 修了
 2017年 大阪大学 日本語日本文化教育センター 特任助教
 2019年 日本学術振興会 外国人特別研究員
 2021年 早稲田大学 高等研究所 講師
 2026年 公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授

研究分野

日本古典文学

所属学協会

和歌文学会、中古文学会、日本文学協会、古代文学研究会

専門分野・研究分野

日本古典文学の外国語訳と西洋文学との比較から見えてくる日本の特徴と翻訳方法の改善

日本古典文学の研究は、文字資料などの実例を検討する実証的な方法を基本としています。これを起点に、私は翻訳研究と西洋文学・文化との比較研究という視点も加えています。日本古典文学作品の西洋諸語への翻訳は19世紀後半から行われていますが、当初から現在までの翻訳についての調査と分析により、日本古典文学とその背景にある文化が世界中にどのように理解されてきているのかが明らかになり、日本の特徴も鮮明に見えてきます。その他、翻訳実践のアプローチも取り入れており、日本古典文学・文化の特質が正確に異文化へ伝達される方法を探求し、実践しています。この場合、西洋文学との比較も参考となります。たとえば、日本の古典和歌と西洋詩にも、自然物や風景描写と人間の感情を関連づける修辞法があります。しかし、西洋詩では多く比喩であり、自然と人間の境界線をはっきりしているのに対し、和歌では自然と人間が同等であり、両者の間の境界線をはっきりしません。和歌の外国語訳ではこういった修辞法はよく比喩として翻訳されていますが、和歌の場合、特に同音異義表現などといった音声のつながりを基にした修辞法の場合、自然と人間が必ずしも比喩関係にあるとは限りません。このとき、和歌の言葉の間に定着している連想関係を参考にして、この連想関係を復元した翻訳が効果的であると考えます。

研究内容

日本古典文学の西洋諸語への翻訳に関する実践的研究と西洋文学との比較研究

1. 日本古典文学の翻訳研究

日本の古典和歌の修辞法、和歌表現、『源氏物語』などの作品の外国語訳(主に英訳、ドイツ語訳、ハンガリー語訳)と西洋における受容と伝達

2. 日本文学の西洋文学との比較研究

和歌と西洋詩の修辞法やモチーフの比較研究を通して、類似性と共通性を明確にする

3. 北陸地域と関わる古典文学と伝統文化、およびその外国における受容

和歌に詠まれる「越の白山」(白山)、大伴家持の越中滞在中、紫式部の越前滞在のとき詠んだ和歌とその海外における受容

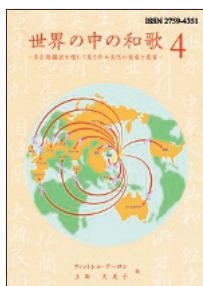


写真1.
研究会報告書『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—4』

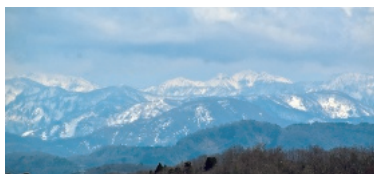


写真2. 和歌に詠まれる「越の白山」(白山)



日本古典文学を正しく理解し、世界中に発信する

シーズ・地域連携テーマ例

- 日本古典文学の海外における受容
- 越前、加賀、越中、佐渡の文学
- 和歌の多言語翻訳研究会「世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—」の開催

論文

- 「平安文学における服飾表現の西洋諸語への翻訳と服飾文化の伝達の可能性について—女性の装束に着目して—」, フィットレル・アーロン, 川村裕子・福家俊幸編『平安装束の陰影』, 武蔵野書院, 247-266, 2025
- 「釈教歌の英訳とドイツ語訳における仏・菩薩・仏法と人間との関係—人称を手掛かりに—」, フィットレル・アーロン, アンダンヴァ・マラル, フィットレル・アーロン編『うた』と信仰—起源、生成、受容—, シンポジウム『うた』と信仰, 59-72, 2024
- 「和歌における同音異義表現の物象と人事との間の関連性について」, フィットレル・アーロン, 『人文』(21), 47-68, 2023年3月
- 「日本の古典和歌における序詞とヨーロッパの民謡の〈物象序〉について」, フィットレル・アーロン, 『人文』(20), 81-108, 2022年3月
- 「『万葉集』歌の序詞の翻訳について—ドイツ語訳と英訳における方法と歴史的な変遷—」, フィットレル・アーロン, 『日本語・日本学研究』(12), 79-97, 2022年3月

書籍等出版物

- 『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—4』(https://drive.google.com/file/d/1kuNKzLIK3TNw4p-l6Yd7G79p-oE8ukB/view), フィットレル・アーロン, 土田久美子編著, 日本古典文学多言語翻訳研究会, 2024年
- 『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—3』, フィットレル・アーロン, 土田久美子編著, 日本古典文学多言語翻訳研究会, 2023年
- 「Száz költő egy-egy verse (百人一首)」, フィットレル・アーロン, カロイ・オルショヤ著, Balassi Kiadó (ハンガリー, ブダペスト), 2022年
- 『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—2』, フィットレル・アーロン, 土田久美子編著, 日本古典文学多言語翻訳研究会, 2022年
- 『世界の中の和歌—多言語翻訳を通して見る日本文化の受容と変容—』, フィットレル・アーロン, 土田久美子編著, 日本古典文学多言語翻訳研究会, 2021年
- 「Szarasina napló – Egy XI. századi japán nemesasszony önéletrajza」(『更級日記—ある11世紀の日本の貴族の女性の自叙伝—』), フィットレル・アーロン著, 個人出版(ハンガリー, ドゥナケシ市), 2018年

講演・口頭発表等

- 「翻訳される「越の白山」—歌枕「越の白山」はどのように西洋の読者に伝えられるのか—」, フィットレル・アーロン, 和洋・昌原国際シンポジウム「日本文学・日本語学・地域文化研究の現在地」, 2025年8月26日
- 「仏教歌集としての『主殿集』」, フィットレル・アーロン, 和歌文学会関東例会, 2024年7月20日
- 「多重化する和歌受容—「百人一首」の初期外国語訳を評価し直す—」, フィットレル・アーロン, ヨーロッパ日本研究協会, 2023年8月20日

競争的資金等の研究課題

- 「『百人一首』ハンガリー語訳注の出版」, 代表, サントリー文化財団「海外出版助成」, 2022年